クロマグロ
太平洋

主な漁業と漁期

曳縄・定置網：周年（未成魚）
まき網：夏～秋（未成魚・成魚）
はえ縄：春（成魚）

生　態

本まぐろとも呼ばれ、寿司や刺身の高級食材となっています。

●分布・回遊

主に北緯20～40°の温帯域に分布します。0～1歳魚は日本沿岸を夏季に北上し、冬期に南下します。2～3歳魚は北西太平洋を時計回りに回遊するパターンが確認されていますが、同じ場所に留まるパターンもあり個体により異なります。未成魚の一部は太平洋を横断し、東部太平洋に渡る個体もいます。成魚は、産卵期には台湾～南西諸島、日本海及び常磐・三陸沖を回遊し、産卵後は太平洋北部の沖合を索餌回遊します。

●産卵期・産卵場

4～7月：日本南方～台湾東沖
7～8月：日本海南西部
＊近年、夏期の三陸・常磐沖で産卵が確認されています

●成長・成熟

成長は早く1歳で体長60cm程度、2歳で90cm程度になり、5歳では160cm程度に達します。その後の成長速度は鈍くなり、8歳で200cm、12歳で226cmになり、寿命は20歳以上と考えられています。

成熟年齢は分布海域によって異なり、日本南方～台湾東沖では5歳魚以上の個体で、日本海では3歳魚以上の個体と考えられています。

0歳魚（体長30cm程度）

漁　業　・　資　源　動　向

【資源】

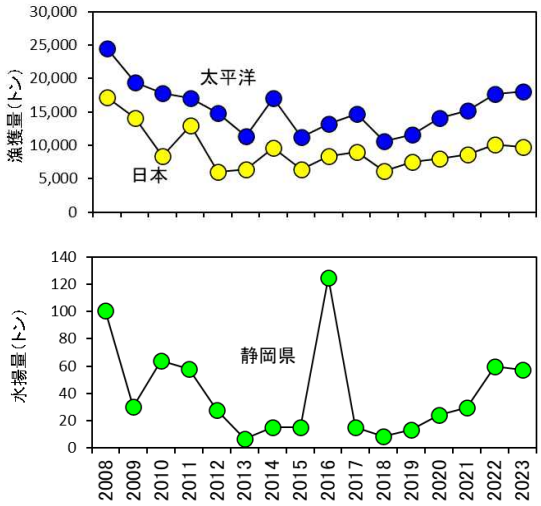
資源
・乱獲状態ではない
漁獲の強さ
・過剰ではない

- 近年の親魚資源量は2010年の歴史的低水準から急速に回復しており、2022年の親魚資源量は約14.4万トンと推定されました。
- 3年に一度実施する最新の資源評価（2024年）では、マグロ類で一般的に適用される管理基準値と照らして、「減りすぎ」の状態を脱却しており、「獲り過ぎ」の状態ではないと判断されました。
- 管理措置として、日本では沿岸漁船承認制や、遊漁を含む漁獲実績報告の義務化等に取り組んでいます。また、2021年から新漁業法に基づく管理に移行しました。2025年1月現在の漁獲枠は、小型魚（30kg未満）4,407トン、大型魚（30kg以上）8,421トンであり、沿岸域では漁業種類ごとに漁獲可能量を都道府県に振り分けて管理しています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》
要約　https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_05S_PBF.pdf
詳細　https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_05_PBF.pdf

【漁業】

- 2008年以降、太平洋全体では年間1.0～2.5万トン、日本では年間0.6～1.7万トンの漁獲量で推移しています（図上）。 また、静岡県の水揚量（遠洋漁業除く）は、7～125トンで推移しています（図下）。
- 静岡県沿岸では、曳縄、沿岸竿釣り、定置網によって漁獲されています。



太平洋と日本のクロマグロ漁獲量の推移(上)と
静岡県のクロマグロ水揚量の推移(下)

担当者の一言：静岡県沿岸で漁獲された個体は、主に刺身用として流通します。小型魚は「メジ」などと呼ばれます。

問合先	静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科　054-627-1817